

思考の構造と論理の原理

高原 利生

takahara-t@m.ieice.org 2020.10.24

目次と概要

1. はじめに

事実からある**粒度**で扱う情報として切り取ったものが**オブジェクト**
虹の7色の中の「青」という粒度は、色を7で**網羅**した時の青

2. 思考、論理とは何かを考え直す

形式論理ではない。**矛盾、論理的網羅**

オブジェクトの分類結果を、存在に対しては種類、運動(関係)や命題に対しては型と使い分ける。**目の前の問題から見つける種類、型が論理的網羅の結果**

3. 論理の全体原理

31. 基本概念：オブジェクト、粒度、網羅

32. 価値と事実、それらに対する哲学と生き方の全体原理

いつもこれらを意識的に向上させる努力をしていると、これらは潜在意識に入り「ひらめき」を生む(シカフス) E&S吉長裕司さんの質問に応じて

2. 思考、論理とは何かを考え直す 論理学

世界観 + 論理学 = 哲学(常識) → 生き方

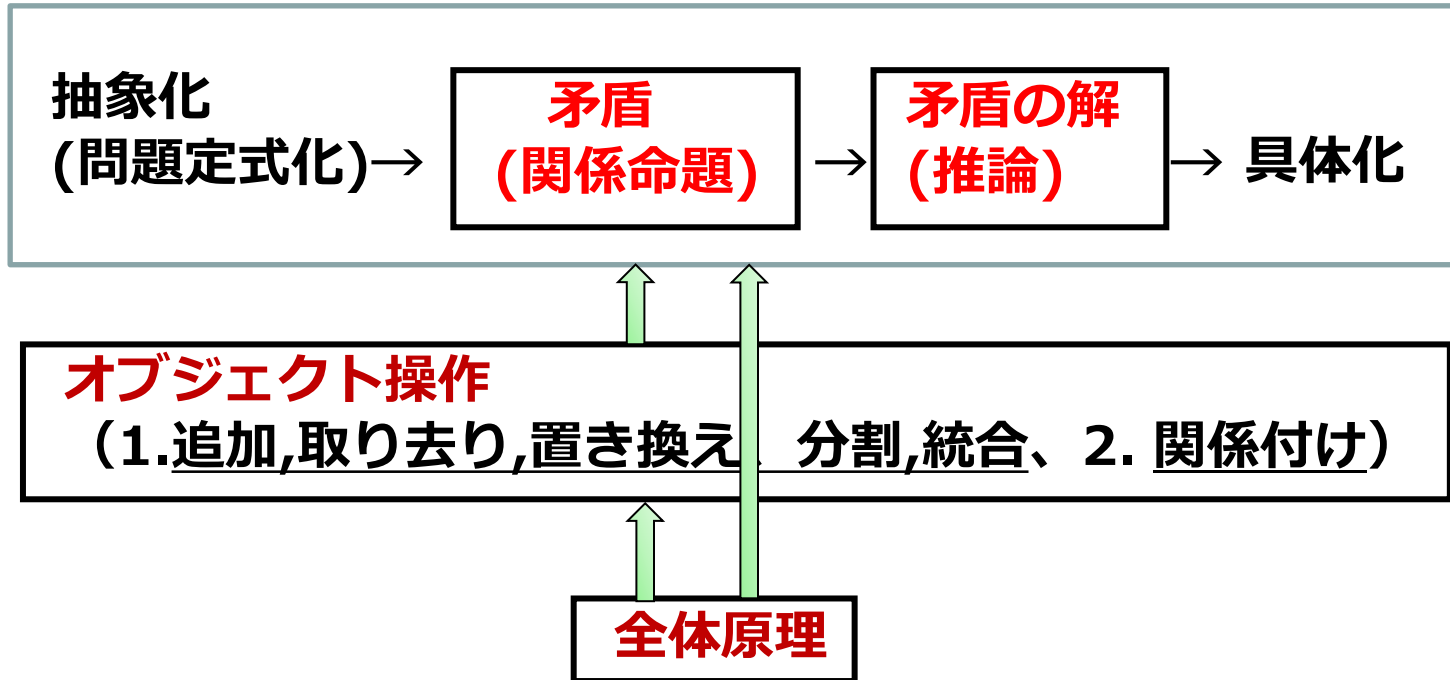
形式論理と文法の中間の弁証法論理学

~~ギリシャ哲学の弁証法~~、ヘーゲル、最近ではプラグマティズム、マルクス主義、西田哲学などの弁証法（矛盾が中心）

本稿の弁証法論理学は、多分プラグマティズムの弁証法
TRIZのアルトシュラーの弁証法がもとになっている

2. 思考、論理とは何かを考え直す

(新しいことを考える) **思考の構造**



「関係命題－推論」と「矛盾－矛盾の求解」は同じ

2. 思考、論理とは何かを考え直す

矛盾モデル＝運動モデル

「オブジェクト1－関係－オブジェクト2」という矛盾モデル

これが、関係し合い変化している世界の**近似**単位。矛盾モデルの合成によって、世界のあらゆる事象を表せる

矛盾	説明
1. 差異解消矛盾	通常の変化、変更.
2. 両立矛盾	通常のもう一つの矛盾。二項を(一時的に)両立 例: エンジンの大出力と軽量:機能と構造
3. (特別な) 両立矛盾: 一体型矛盾 [TS2010,11] [FIT2016,17]	二項がお互いを変更し続ける両立矛盾 例: 機能と構造, 一体化と対象化, 思考と学習

2. 思考、論理とは何かを考え直す：推論

歴史：

事実の物理的積み重ね→ (特殊の一般化)帰納 Induction

事実の変化の積み重ね→ (一般の特殊化)演繹 Deduction

条件実現の積み重ね → (特殊の別の特殊化) 仮説設定 Abduction

論理的網羅ができると

1 →正確な帰納、演繹、仮説設定のできる可能性

今後の気象を予測するのに、今までと似た気圧、気温、風速、海水温のパターン（これが論理的網羅の一つ）と似た過去の気象のデータのパターンを選び、その後の気象データを使う、または計算で予測する

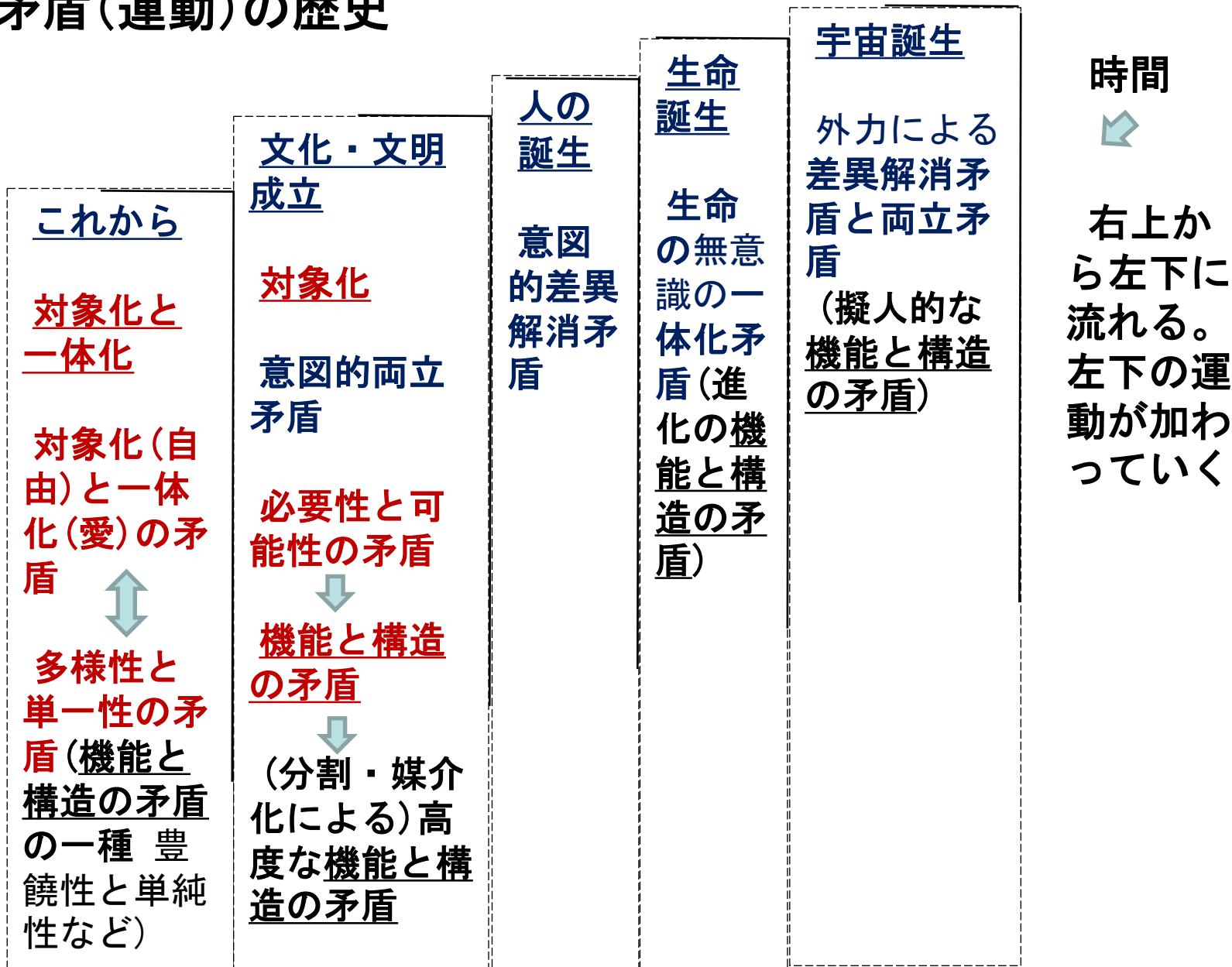
2 →形式論理以外では、**仮説設定Abductionで統一できる**

→**矛盾の解も推論も、仮説設定で求める**

矛盾(運動)の分類

矛盾	結果の型	運動の型	変化の型	説明と例
差異解消矛盾	量的変化	永続的	値	通常の変化、変更 例: マントル運動
	質的変化	一時的	値から属性	通常の変化が質的変化を起こす 例: 地震
	二項の両立	一時的	値	同時に 岡山と東京にいる
両立矛盾			属性	機能と構造(エンジンの大出力と軽量)
	質的変化	一時的		全ての製品
	変化の持続	永続的		男と女。進化の機能と構造 労働、交換と消費
一体型矛盾				対象化と一体化 批判と謙虚さ 自由と愛

矛盾(運動)の歴史



矛盾(運動)の歴史：歴史と論理の一致による論理学

後の高度な矛盾が、前のより基本的矛盾の上に積み重なりながら発展する構造ができた

客観的な自然における矛盾が、宇宙誕生後からあり、
それに自律運動をする生命の矛盾、
さらに人の意識的努力の矛盾が加わる

自然世界の運動と人を含む生命世界に共通に「機能と構造(内容と形式)の矛盾」がある

意図的な対象化一方向一体化の一体型矛盾が加わる

今後、意図的な対象化と双方向一体化の一体型矛盾の実現を見通す

カントの理性、悟性などの介在物によらず、他の既存の哲学にもよらず、知覚と事実と人の関係の歴史蓄積だけに基づく論理学ができる

3. 論理の全体原理1

31. 粒度、網羅の原理

1. 思考の中核が**粒度決定と論理的網羅**

2. 何事も、その**全体は何か、全体の機能と構造(要素の関係)**

は何か、要素は何かという三つの網羅がある。要素が新しい全体になり次に行く場合と全体が何かの要素になり次に行く場合がある

32. 価値と事実、それらに対する哲学と生き方の**全体原理**

321. 客観的内容

1. **条件より価値,内容が重要、大きな価値,正しい真実が優先**

2. **過程重視：解より方法、結論より論理が良い。**

個々の行動より態度が良い。

存在やその状態より、関係（運動）、過程が良い

322. 主観的態度：**対象化、相対化と一体化**

3. 論理の全体原理2

323. 方法

1. 事実のゼロベースと論理のゼロベース

2. 極限を考える

- ・あるオブジェクトの粒度を1. 極限まで変えてみる.
2. その実現の手段を考える
- ・理想の答えがあるとしたらどういう形のものが

3. 全体と部分の方法原理

- ・問題はローカルに処理しグローバル化しない。
- ・全体と部分の方法原理：全体に貢献するように部分を解く。問題を部分に分け部分を解く、行き詰ったら別の部分の問題を解く

33. 負の原理：今の論理の殆ど

事実の粒度の間違い 価値の粒度の間違い
感情,論理,行動のすり替え

謝辞: 日頃支援をいただき中川徹 大阪学院大学名誉教授、激励いただき高原明生 東京大学政策研究大学院 院長、質問者三井E&S吉長裕司さんに感謝申し上げます

文献: [Taka-44-47] 高原利生「未完成の哲学ノート」2019.3.25初版. 2020.11.09 7版, 制作 MyISBN 発行所 デザインエッグ

メールを送っていただければ
内容のpdfをお送りします。

takahara-t@m.ieice.org または
ugg21948@outlook.com

概要はAMAZONを高原利生で
検索すれば見ることができます

